

国立大学法人としての

兵庫教育大学

特別
企画

平成16年4月の国立大学法人化にともない、各大学の判断で学生や社会のニーズを踏まえた学科編成を行うことが可能になるなど、創造性にあふれた取り組みが全国の大学で始まっています。「このような流れの中で、私たちが兵庫教育大学はどのような目標を持ち、どのような大学へと発展していくべきか」。今回は特別企画として、国立大学法人としての兵庫教育大学が歩むべき方向性などについて、中瀧正堯学長をはじめ4名に意見を聞きました。



教育実践学の 拠点大学として

平 成16年4月1日、国立大学法人 兵庫教育大学としての新たな歩みが始まりました。

また、本学は昭和53年に創設されてから、ちょうど四半世紀の区切りを迎えました。この間、「教

員のための大学院大学」という特色を核として、わが国の教育界に寄与する多くの人材を輩出する

とともに、大学教職員も直接あるいは間接的に社会貢献に力を尽くしてまいりました。

本学は、開学当初から教育の実践と理

論の融合を具現化する「教育実践学」を指標とし、平成8年度に開設された大学院連合学校教育学研究科(博士課程)では、「学校教育実践学」と「教科教育実践学」の2専攻を立ち上げました。この2専攻を持つ学校教育学研究科は全国でも唯一のものであり、その基盤は学校教育研究科(修士課程)に支えられています。

大学院修士課程の前段階として、学部では教員養成を行い、全国トップレベルの就職率を維持しています。あわせて、本学の念願は、他の追随を許さぬ「教育実践力の育成」です。

これら教育実践学の強力な助っ人として、この4月から「兵庫教育大学教育実践ネットワーク」を開始しました。このネットワークは、やがて大学の内外、国内外へと開かれていき、これまでの教育実践・研究の成果の集積と活用という機能を果たします。一方で、現場からの新しい教育問題の提起が、大学の専攻・コースのありようを改革していくのです。

これから兵庫教育大学は、さらに教員のための教育実践学を樹立する、卓越した拠点大学への道を進んでいきます。



学長
なかす まさ たか
中瀧正堯

3つのプロセスにおける課題を解決



理事
(大学院)・副学長
濱名 外喜男

修

士課程の教育をこれまで以上に充実・発展させていくためには、「入口」「過程」「出口」に対応する課題の検討が必要です。

まず、「入口」の課題とは、「学生受け入れ方針に沿った適切な入学者選抜方法の検討」です。いろいろなニーズや背景を持った人々が修士課程に応募されます。こうした人々に対する適切な選抜方法の問題です。平成17年度入試では、多くの専攻・コースで志願者群別に異なる選抜方法の実施を計画していますが、その精査が課題です。

次の「過程」の課題とは、「社会的・教育的ニーズに対応でき

る教育課程編成と指導」です。学校教育専攻の4コースと障害児教育専攻では、平成17年度から専攻・コースのカリキュラムを編成し直し整備しますが、こうした検討はどの専攻・コースにも必要になるはずはです。

最後に「出口」の課題とは、「修士の学位授与に関わる対応」です。教育経営コース(スクールリーダーコースに変更)では、専門職大学院への移行を視野において、修士論文に替えて、学校・学級改善に関する戦略立案などの実践的課題研究で評価する計画です。こうした対応も、今後全学的に検討すべき課題です。

教育研究のレベルアップと発展を目指す



副学長(学部)
佐藤 光

2

年間にわたる準備期間を経て、「新生・兵庫教育大学」が本年4月よりスタートしました。国立大学の法人化という、このたびの大規模な大学改革の第一の目的は、大学における教育研究の水準の向上と均衡ある発展にあります。新しい制度の運用にかまけて、肝心の教育研究がおろそかになつてはいけません。

この本来の目的を十分に自覚して、今後の大学改革に取り組んでいきたいと思えます。

これまでは、国立大学法人としての中期目標・中期計画の原案作成と、新しい大学運営のシステムづくりに努力を集めてきましたが、今後は中期目標を

達成するための具体的な取り組みに力を注ぐ必要があります。学部担当副学長としては、とりわけ、以下の課題に取り組みたいと考えています。

① 教育課程および教育内容の改善への取り組み

学部教育において養成すべき人材像を再確認し、教育課程・教育内容が人材育成の目的に沿ったものになっているかを点検して、必要な改革を行います。

② クラス制度の実質的な運営と学生への修学支援・生活支援の充実

本学では、少人数教育をその特色としています。それを支えるのがクラス制度ですが、形骸化しているとの反省もあります。クラス制度の実質的な運用を図り、「学生中心の大学」への転換を実現します。

③ 新たな就職支援体制の円滑な運用による就職率の一層の向上

本学はこれまで、全国の国立教員養成大学・学部の中ではトップレベルの教員就職実績をあげてきました。本年度より、新たに大学院生も含めた就職支援体制を発足させ、教育界を中心とする各界で活躍する卒業生・修了生を輩出します。

実践を通して真理を追究し、 教育界に豊かな稔りを



理事
(社会連携・広報)
みやざき ひでき
宮崎 秀紀

兵

兵庫教育大学は「教育実践学」の推進を基本目標

に掲げています。これと関連して、私は森信三を思い浮かべました。

森は明治29年（1896年）

愛知県に生まれ、苦学しつつ愛知第一師範学校、広島高等師範学校、京都大学哲学科に学びました。旧満州建国大、神戸大、海星女子大で教鞭をとりましたが、その一方で全国各地に出向き、教育現場で実践に当たる数多くの教師との研究会や実践記録の出版普及など、文字通り東奔西走し、神戸市にて96歳で亡くなる最期の時まで渾身の努力を傾け続けた「実践の人」だったそうです。そして、様々な人々が

直接・間接に教えを受け、啓発され、現在も森の遺志を受け継いで全国各地で実践する人たちは、50000人を超えるといえます。

親や社会の学校教育に対する期待をあげていくときりがありませぬ。「基礎的な知識はきちんと身につけてほしい」「新しいことを生み出す創造力をつけてもらいたい」「人を愛する温かい気持ちを持つ人間に育ってほしい」「自然との共生、異文化との共生の心を育てほしい」など、数えきれませぬ。少子化、情報化など時代の進展に伴って、この期待は重く、かつ多様化し、教師も子も親もそれを背負いきれなくなっているように思えます。「学校教育の基礎基本とは何なのか、いや、そのもつと底にある人間教育の原点とは何なのか」。私が兵庫県の教育長を務めた時、ふと、こんなことを思ったことがあります。その時、どうにも答えが見出せなかつたことを思い出します。

森が人づくりの原点として説いたことは、次のようなことであつたといえます。「一、腰骨をたてる」「二、掃除をする」「三、挨拶をする」「四、履物をそろえる」。そして、「人生は二度なし、これ

最大最深の真理なり」とも言っています。

身体の姿勢をまっすぐに、呼吸を整えて気持ちを集中させて。皆で過ごす場所を率先してきれいに整頓して、社会的な存在としての自分を自覚する。挨拶はコミュニケーションの始まり。「凡事徹底」、平凡なことを徹底して行うことが教育の原点だといえます。思えば、「人生は二度なし」も極めて含蓄に富んだ言葉です。

これらは森の人生において、先人と出会い、実践を通して見出され体得した真理だそうです。簡単といえば簡単、しかし、正に簡にして要を得た教えです。私は、これを読んで目から鱗が落ちるような思いがしました。幸い本学は巨大化してしまつた大学

と異なり、単科大学にもかかわらず、多彩な学問領域の研究者を擁しながら風通しの良い適度なサイズの「総合大学としての特性を持つており、学校や地域の現場と密着した実践学を旗印として掲げ続け、現在、学長を中心にとまつて意欲的な改革を進めています。微力ではありますが、私もその一員として加えていただいた感激を胸に、今後「実践」を通して真理を追究し、我が国の教育界に豊かな稔りをもたらし続けることを期していきたいと思ひます。

参考文献：辻野昭「教育実践学の構築に向けて」兵庫教育大学大学院連

合学校教育学研究科「教育実践学の構築」平成11年所収

神渡良平「人生、度なし」森信

三の世界」佼成出版社（平成13年）



From research notes.

子どものテクノロジー・リテラシーを育成する 技術科教育のあり方



私たちの生活は、数え切れないテクノロジーに支えられています。しかも、テクノロジーはあたたかも空気のよう

国では、子どものテクノロジー・リテラシーの形成を標榜する学校教育として、中学校に技術・家庭・技術分野（技術科教育）が位置づけられています。

テクノロジーに支えられている現代社会では、そこに生活するすべての人が、「テクノロジーを理解し、活用し、管理する能力」を身につけることが重要です。このような能力は、「テクノロジー・リテラシー」(Technology Literacy)と呼ばれています。我が

では、子ども達は生活の中で「技術」をどのように捉え、理解し、向き合おうとしているのでしょうか。筆者らが行った調査の結果^{*1,2}では、子どもは「技術」に対して「活動・行為としての技術」「人間の能力としての技術」「社会を支える技術」という³

のイメージを持っています。このうち、「社会を支える技術」については、「環境の破壊と保全」「資源の枯渇と有効利用」「先端技術の光と影」といった「技術」のもたらす「恩恵」と「問題」とのバランスのあり方に興味をひきつけられています。

さらに、消費行動と関連のある技術、例えば「遺伝子組み換え食品の是非」に対しては、「技術の将来展望」や「生産システムへの影響」に対する理解が肯定的な意見形成に、「世論」や「危険事例の有無」「運用上の制限」などに対する理解が否定的な意見形成にそれぞれ影響することがわかりました。

このような技術評価(テクノロジー・アセスメント)は、大人にとってもたやすい問題ではありません。その意味では、最終的な意見形成に正解はないと言えるでしょう。むしろ、子どもが自分達の生活を支えている「技術のあり方」に目を向け、自分なりの価値基準を持つとうとする中で、「技術に対する認識」を形成していくことが重要です。その認識は、「創造的な体験」の中で深まりながら、「社会を支える技術」を生み出した先人の素晴らしさや、その背景にある「技術の科学」との出会いへと結びついていきます。一人ひとりの「リアルな学び」を大切にしながら、科学・社会・生活との結びつきの中で、子どものテ

テクノロジー・リテラシーを総合的に育成することが何より重要であると考えられます。

*1 森山 潤・白谷健太郎：児童・生徒の「技術」に対するイメージの構造、日本工業技術教育学会誌「工業技術教育研究」第9巻第1号、43 p-53 p(2004.3)

*2 Jun Moriyama, Kentaro Shiratani & Masashi Matsuura: Students' Interests and Decision-Makings in Learning of "Social Impact of Technology", Proceedings of the 14th International Conference of Pupils Attitude Toward Technology, Albuquerque, NM, U.S., (2004.3)



生活・健康系教育講座技術分野
技術科教育研究室 助教
◎Moriyama Jun

森山 潤

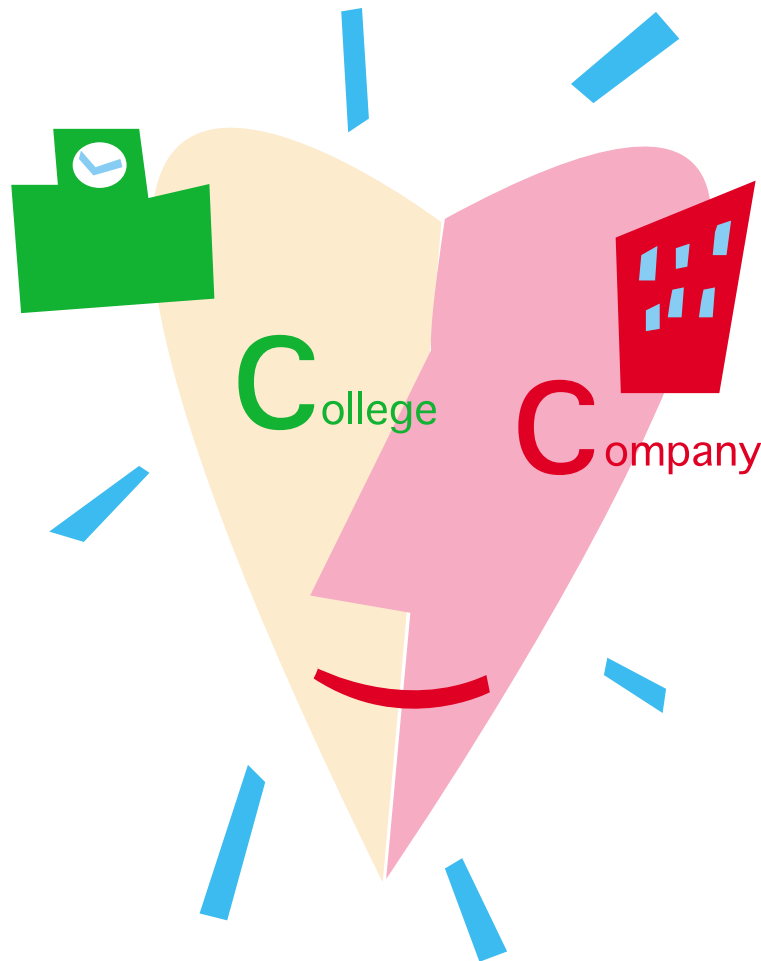
同教授

◎Matsura Masashi

松浦正史

珈琲をすすりながら

私は、毎日のように学校教育研究センターの研究室と実験室から、ネットワーク上でのビデオ会議や音声会議をしています。授業では簡易な音声会議ツールを使って、海外の研究者や国内の知人など遠隔地にいるゲストに登場してもらい、受講生の質問などに答えてもらっています。また、自宅にいながら音声会議



地場産業と手を組む 兵庫教育大学

ツールを使って、神戸にある大学院修士課程（夜間クラス）の院生とのゼミも行います。この時、院生は各自、ゼミで使う対話の資料を事前にネットワーク上に用意し、ゼミではそれをみんなで一緒に見ながら討議するのです（※ネットワーク上で学習することを大学という業界では「eラーニング」と呼んでいます）。通信衛星を使った「スペースコロポレーション・システム」という巨大な

会議システムが大学構内にありますが、こうした大規模で複雑な設備は、今日のビデオや音声会議では全く必要ありません。このように、授業やゼミや討議にバラエティを持たせるためには、ほんのわずかの機器でOKとなりました。おまけに、研究室で珈琲をすすりながら遠隔にいる相手と研究協議をしたり、対話できるのですから、もうこれは「どうにも止まらない」の気分です。

この時活躍するのが、参加者が一斉に集うことのできる「グループウェア」というツールの存在です。ネットワーク上において、共通の学習を行い、討議する場を創るのがグループウェアというものです。ネットワーク上で人が集まる場所は、いわば仮想の教室とか談話室といわれています。

”地域貢献“がはやりの昨今

文部科学省も、ネットワークで授業を受けることを認めています。なぜなら、誰もが、どこにいても学習できる生涯教育やリカレント教育の機会が、市民に拡がってきたからです。市民が時間や場所に拘束されないで学習できるようにするためには、ネットワークの利用は好都合なのです。

この時代は、「人を集めて知識を授ける」という方法から、「欲しい情報を人のところに届ける」という時代に切りつつあります。かつて大学は、象牙の塔などといわれ、誰もが近寄り難い存在でした。しかし、今は違います。もちろん、研究と教育は大学の両輪ともいえる使命ですが、それにもう一つの輪、すなわち「地域貢献」という使命が加わりました。

人造りとモノ造り

大学と学校と地域という、いわば三つの層が重なり合うのです。

地域にはさまざまな企業があります。企業は大学の知といわれる財産を活用し、企業活動を発展させたいと考えています。大学も企業の市場における商品化や販売などのノウハウを活用したいのです。本学は、企業のモノ作りと同じ発想に立ち、モノはものでも「人」を造ることが使命となっています。大学と企業の違いをあえていうならば、大学は長期的な展望から人造りに臨むのに対し、企業は比較的短期間で時代に合うモノ造りにまい進する傾向があります。

しかし、学校におけるさまざまな問題や挑戦を受ける今日、大学もあまり悠長に構えてはいられなくなりました。いわば、即戦力となる教員という人材の育成に力を注がなければなりません。ここに、大学が企業の有するノウハウを重視しなければならぬ理由があるのです。大学と企業が手を携えてお互いの益となる活動、すなわち産学共同研究もこうした背景から生まれるも

のであり、私は企業との共同研究をはじめ3年目になります。

冒頭に、ネットワークを使った遠隔での学習や授業のことに触れましたが、今や通学しないで修士号を取得できる「バーチャル大学院」を持つ大学もあります。このような学習形態では、学習者がどこにいても参照できる資料や材料（オンラインコース）が不可欠です。しかし現状では、肝心の教材は種類が非常に少ないため、遠隔学習を普及させることの足かせになっています。さらに、遠隔で学習するのですから、教室での対面授業とは違った工夫が必要であり、学生同士の対話を作る場を用意しなければなりません。学習者は一人だけで学ぶのではなく、学びの友が必要となります。人造りとは教師と学生、学生と学生同士の学びという営みです。

産学共同研究からなにを

市場産業と大学が共同で取り組む活動の果実は、双方にとつて有益なところがあります。なぜなら、互いに足りない人材やノウハウを提供しあえるからです。私どもの研究テーマは、eラーニングに絞って進め、共



同研究の相手としてK社という市場産業と手を組みました。そして、「1、教師教育における遠隔でのグループウェア用ツール開発」「2、コラボレーション用ツールの商品化」「3、大学や教育センターに対するグループウェアの広報活動」といったテーマに取り組みました。

グループウェアの開発に際して、かけたのは、学習者にとつて優しく使いやすいもの、つまり学習者が直感的にわかるデザインです。幸い、出来上がったグループウェアは、平成16年度から2年間、本学のeラーニングの基本ソフトの一つとして採用されることになりました。現在、9科目の授業でこのグループウェアが使われています。K社とは、平成14年および15年に、国際協力事業機構（JICA）が公募していた海外向け教材開発で提案が採択された

ことなど、今のところ良好な関係を築いています。ただ、「大学発の教育ベンチャー創出に貢献する」という当初の共同研究のスローガンはいまだ達成されていないので、今後の展開に期待しています。



学校教育研究センター
情報メディア教育研究部門教授

◎Narita Shigeru

成田 滋

E-mail: naritas@ceser.hyogo-u.ac.jp

平成17年度に向けた 修士課程のさらなる改革

大学院修士課程では、今年度、学校教育における『心のケア』のエキスパート養成をめざす「学校心理コース」を新設し、また、神戸サテライトの「昼夜開講制コース」を8コースに拡充しました。

さらに、「長期履修学生制度」や修士課程では我が国初の「小学校教員養成プログラム」などの新制度を導入して、多くの学生を受け入れました。これらの制度は、今後とも継続します。

平成17年度では、これまで行ってきた改革をいっそう充実・発展させながら、多様化する社会のニーズに応えられる修士課程の構築に向けてさらなる改革を行います。

扉の向こうに、明日の教育がある

1

学校教育専攻と 障害児教育専攻を改革

学校教育専攻の4コースと障害児教育専攻が、教育現場のニーズに沿うようにそれぞれのカリキュラムを改善・整備し、同時に専攻・コースの名称変更をします。

学校教育専攻

- 教育コミュニケーションコース(旧 教育基礎コース)
- スクールリーダーコース(旧 教育経営コース)
- 教育内容・方法開発コース(旧 教育方法コース)
- 生徒指導実践コース(旧 生徒指導コース)

特別支援教育専攻(旧 障害児教育専攻)

※名称変更申請中

2

神戸サテライトを拡充

大学院神戸サテライトでは、教職等の仕事を終えてから夜間に修学できる「昼夜開講制コース」を設置しています。また、平成17年度からは、特別支援教育専攻(障害児教育専攻から名称変更予定)以外の全専攻・コースがサテライトで開講します。なお、特別支援教育専攻では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校で3年以上の教職経験を持つ人がサテライトで養護学校教諭免許を取得できるように、複数の専門科目を開講します。

3

教職経験者に対する 入試方法を変更

次の専攻・コースでは、初等中等教育機関(保育所を含む。ただし、無認可のものを除く)で3年以上の教職経験を持つ人に対しては、筆記試験を課さず、口述試験のみで選抜します。

学校教育専攻

- 教育コミュニケーションコース
- スクールリーダーコース
- 教育内容・方法開発コース
- 生徒指導実践コース

教科・領域教育専攻

- 社会系コース
- 自然系コース
- 芸術系コース
- 生活・健康系コース
- 総合学習系コース

4

小学校教員養成プログラムを充実

全国にさがかけて導入した「小学校教員養成プログラム」の2期生を迎えます。カリキュラムを工夫し、プログラム受講生のためのアドバイザー教員を配置するなど、充実した修学・就職指導を行います。

4月

鴨川桜まつり

毎年4月中旬に社町が実施している「桜まつり」に本学の留学生が招かれ、満開の桜が咲きほころ西国25番札所である清水寺で境内の見学と参拝の後、野だて、琴の演奏など多数の催し物を楽しみます。



フレンドシップ事業★

平成4年度からやしろ国際交流協会主催のもと、留学生と地域住民が家族ぐるみで交流を行い、相互の国際理解を深めることを目的に実施されています(過去244人の留学生と延べ179の家庭が参加)。



5月~11月

やしろ国際交流サロン★

5月から11月までの毎月1回(8、9月をのぞく)、留学生の各国の文化や料理を紹介したり、日本の文化や習慣を留学生に教えたりしながら、地域の方々と交流を深めています。



8月

やしろ夏のおどり

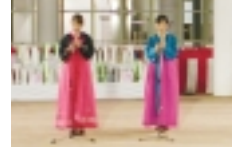
社町の夏の風物詩である「やしろ夏のおどり」には、地域の方々に混じって留学生も連を作って参加します。やしろ国際交流協会から贈呈された半被を着ると留学生も踊りに熱が入り、時が経つのも忘れて楽しめます。



9月

嬉野台観月の夕べ

9月の仲秋の名月前後に、本学の野外ステージにおいて社町と共催で「月見」を行います。名月を眺めながら、懇談を通して本学学生、留学生、地域住民の方々と交流を深めます。



～兵庫教育大学と地域の交流ページ～

う れ し の 交 差 点

社町と地域ぐるみで取り組む国際交流事業

兵庫教育大学では、地元自治体である社町、やしろ国際交流協会、民間のボランティア団体などと連携して、本学に在学する留学生を中心に地域ぐるみで国際交流を行っています。留学生が日本の文化を学ぶ貴重な機会となっている、社町の豊富な自然と文化を生かした様々な行事のうち、主なものをご紹介します。(★印は、やしろ国際交流協会主催行事)

フレンドシップファミリーとの親睦旅行★

毎年9月～11月頃にフレンドシップファミリーとの親睦旅行があります。日頃から家族同様にお付き合いをしているフレンドシップファミリーと留学生が、社町近隣の名勝へ観光バスで出かけます。



12月

クリスマスパーティー★

12月に実施されるクリスマスパーティーでは、フレンドシップファミリーやボランティアの方々、また社町在住の外国籍の方が多く参加します。国際交流の輪がより一層広がるパーティーです。



2月

卒業予定留学生のための茶道体験教室★

本学を卒業し、日本を離れる留学生を対象に茶道教室が実施されます。会場は社町内の旧邸等が利用され、貴重な文化財に直に触れることで、日本独特の風情を感じる機会となります。



近隣小・中学校への留学生派遣

帰国後教員を目指す者が多い本学の留学生は、日本の教育現場を学ぶために、近隣小・中学校への派遣に積極的に参加しています。平成15年度は計18校からの派遣依頼があり、延べ85人以上の留学生が参加しました。



その他

本学留学生は、社町、やしろ国際交流協会が主催する行事の他にも、民間団体の実施する行事などにも積極的に参加。また、本学の国際交流会館では、民間のボランティア団体が着物の着付け教室などの伝統文化教室(年6回)も実施しています。



Books

附属図書館で見つけたおすすめの1冊

漢字と日本人

高島俊男著 文春新書
推薦人:前田貞昭(言語系教育講座)

「伝染」「電線」と「伝統」「電灯」は耳で聞くと同じですが、字が違います。「十一月の三日は祝日で、ちょうど日曜日です」と書いてあると、「日」という漢字を「カ」「ジツ」「ニチ」「ビ」と読み分けます。こんなことは当然だと思っていますが、「たいへんなことをしているのだ」というのが著者である高島さんの言い分です。そもそも、日本語とは全然関係のない中国の漢字を輸入したので、こんな無理が出てきたようです。日本語の「乱れ」を嘆く前に、この漢字というやっかいな重荷の歴史を振り返ってみるごとの方が役に立つでしょう。



算私語録

安野光雅著 朝日新聞社
推薦人:濱中裕明(自然系教育講座)

エッセジャーに代表されるように、数学のエッセンスを遊びや芸術に昇華させた作品や本が脚光を浴びた時代がありました。安野光雅氏は絵本作家ですが、彼の描く絵本も、そういった流れの中の代表的な作品のひとつでしょう。「ふしぎなえ」「ABCの本」などの知的な好奇心を呼び起こす不思議な絵を多く描いています。この本は、安野氏が彼特有の好奇心と視点で、日常の中から切り取った小文を集めたエッセイ集です。数行の小文から数ページにわたるものまで、345個の小エッセイが連想ゲームのように並んでいます。現在では、少々入手困難な本であり、図書館に並んでいるのをとてうれしく思います。何度読んでも、この本にある彼の視点や考え方には、はっとさせられるものがあります。文系理系を問わず、彼の軽妙な数的あそびのエッセイを味わって欲しいと思います。



附属施設 リレー紹介

第5回 附属中学校



案内人
松浦正史 校長



附属中学校

附属中学校の正門を入ると、一本の大きな「櫻(けやき)」が目に入ります。昭和57年の開校当時に、本校の教育目標である「人生をたくましく豊かに生きぬくために、考え、鍛え、行動する人間の育成」を願って植えられたそうです。櫻は成長すると30数メートルにもなり、柔軟な

材質で、光沢を放つようになります。ここで学ぶ生徒たちも、将来、大きく豊かな柔軟性を備えた人間になることを願っています。

附属中学校園の目標は、兵庫教育大学の中期目標・中期計画にあるように、「幼稚園教育および小・中学校教育の在り方を、大学との共同研究のもとに理論と実践の両側面から研究し、これからの時代にふさわしい教育の構築を目指して、成果を公開、発信するモデル校として教育研究に取り組む」ことにあります。

従って、本校の任務としては、
① 義務教育学校としての任務
② 実習・実地教育校としての任務
③ 大学への研究協力校としての任務
という3つをあげることができます。

すなわち、本校は、附属幼稚園・小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じた中等普通教育を行い、兵庫教育大学における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ兵庫教育大学の計画に従い、学生の教育実習の実施に協力していくことを目的としています。

日本の教育が大きく変革しようとしている現在、幼稚園・小学校・中学校で一貫した教育の在り方、「生きる力」「確かな学力」を身につけさせる教育の具体的実践などが問われています。本校は、大学との連携・協力を一層密にし、教育内容の開発や教育方法の改善に向けた共同研究も推進しながら、これからの時代にふさわしい教育の在り方を探っていきたいと思っています。

設置年:昭和56年4月1日
教育目標:「人生をたくましく豊かに生きぬくために、考え、鍛え、行動する生徒」
学級編成・児童数(平成16年5月1日現在):各学年3クラス・311人



設置年:昭和56年4月1日
教育目標:「人生をたくましく豊かに生きぬくために、考え、鍛え、行動する生徒」
学級編成・児童数(平成16年5月1日現在):各学年3クラス・311人

卒業生・修了生からのメッセージ

Messages From OB&OG



姫路市立姫路高等学校教諭
藤井賢二さん

平成12年度大学院修士課程
教科・領域教育専攻 社会系コース修了

兵庫教育大学大学院で過ごした2年間の「至福の時」から、はや3年。教職の仕事と研究とを両立させようと苦心する毎日です。この間、3回の全国的な学会での研究報告、および2つの審査を経た論文の発表を行うことができました(「日韓漁業問題の歴史的背景」<『東アジア近代史』5>、「李承晩ライン宣布に至る過程に関する研究」<『朝鮮学報』185>)。研究への意欲を持続する上で欠かせないのが、松田吉郎先生が主催される兵庫教育大学東洋史研究会の8月の研究会と、翌春に発刊される『東洋史訪』への投稿です。私にとって竹の節目のような存在を得ることができたことを改めて感謝しています。



梅花女子大学助教授
遠藤 晶さん

平成10年度大学院博士課程
学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座修了

大学院を修了してから、幼稚園教諭や保育士の養成に携わっています。短期大学などでの勤務を経て、今年4月から現職に就任しました。担当の教科は、保育原理、保育内容に関する科目、実習指導等です。保育の現場では、子どもを保育することはもちろん、子育てを支援することが期待されています。私自身も、子どもを育てる上での保護者の多様化している悩みに耳を傾ける機会を持ちながら、保育の現場と連携し、これからの保育について考える日々を送っています。



青垣町立青垣中学校教諭
荒木麻穂さん

平成12年度学校教育学部
教科・領域教育専修 生活・健康系専修コース卒業

毎日、元気のある生徒たちと、声を張り上げ楽しく過ごしています。自然に囲まれ、四季を肌で感じることができ、中学校で教師生活3年目を迎え、学生時代に講義やクラブ活動を通して学んだことが、今の私の中で大切な「引き出しの1つ」となり、毎日の支えとなっていることを実感しています。いろいろな場所で兵教大の卒業生と出会い、話を聞く度に「私も頑張らないと…」と気合いが入ります。そんな刺激を与えてくれる存在に、これからもたくさん出会うことを楽しみにしています。そして、いつまでも「引き出し」を増やしてくれる大学であり続けてほしいです。

Campus Topics

キャンパス・トピックス

2004.1~6

「キャンパス・イノベーションセンター」に 「連合大学院大阪サテライト」を開設

兵庫教育大学連合学校教育学研究所(構成大学・上越教育大学、兵庫教育大学、岡山大学、鳴門教育大学)は、このたび、大阪・中之島にオープンしたキャンパス・イノベーションセンター(大阪地区)内に「連合大学院大阪サテライト」を設置し、5月10日、4大学関係者の出席のもとにテープカットと表札掲げを行い、サテライトの開設を祝いました。

同サテライトは、44平方メートルの占有室1室で、博士課程の授業・研究指導、少人数会議に使用するほか、同センターが24時間利用可能な施設であるという利点を生かし、共同研究プロジェクトの拠点としても活用することとしています。

また、同センターの多目的スペースを利用した研究会などの多人数会議の開催、さらには他の入居大学との連携を通じた教育研究活動による地域社会への還元と情報発信を積極的に推進することとしています。



4月

- 6日
 - ◎大学院学校教育研究科入学式
 - ◎学校教育学部入学式
- 9日
 - ◎附属小学校入学式
 - ◎附属中学校入学式
- 12日
 - ◎附属幼稚園入園式
- 13日
 - ◎大学院連合学校教育学研究所入学式

- 20日
 - ◎学部後期日程 入学者選抜試験 合格発表
 - ◎大学院第2次募集 入学者選抜試験 合格発表
- 22日
 - ◎大学院学校教育研究科 学位記授与式
- 23日
 - ◎学校教育学部卒業式
 - ◎大学院学校教育研究科(夜間クラス)学位記授与式
- 26日
 - ◎大学院連合学校教育学 研究科学位記授与式

3月

- 6日
 - ◎学部前期日程 入学者選抜試験等 合格発表
- 12日
 - ◎学部後期日程 入学者選抜試験
 - ◎附属中学校 卒業証書授与式
- 13日
 - ◎大学院第2次募集 入学者選抜試験
- 17日
 - ◎附属幼稚園 修了証書授与式
- 19日
 - ◎附属小学校 卒業証書授与式

2月

- 13日
 - ◎附属中学校総合 学習発表会
- 15日
 - ◎連合学校教育学研究所 入学者選抜試験
- 21日
 - ◎附属小学校うれしの フェスティバル
- 23日
 - ◎国立大学法人説明会(学生対象)

1月

- 15日
 - ◎大邱教育大学校 交流訪問団来学
- 17日~18日
 - ◎平成16年度 大学入試センター試験
- 24日
 - ◎附属中学校立志式
- 27日
 - ◎学校教育学部 推薦入学者選抜試験
- 29日~30日
 - ◎附属小学校研究発表会

学校教育研究センター プロジェクト研究発表会、 講演会および ラウンドテーブルの開催

平成16年3月20日(土)、学校教育研究センターにおいて、当センターのプロジェクト研究発表会、講演会およびラウンドテーブルが開催されました。

まず最初に、プロジェクト研究発表会が行われ、学校問題解決研究部門の古川部門主任から「学校における児童生徒の学習効果を上げるための総合的研究」、情報メディア教育研究部門の成田部門主任から「問題解決に要求される『確かな学力』を育成するための情報通信技術の応用と、教師の情報活用と力量形成に関する研究」、実地教育支援研究部門の長澤部門主任から「子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力形成に関する研究」について、それぞれ発表が行われました。

引き続き、ハワイ大学講師のJohn H. Southworth氏による「インターネットで科学を楽しく学ぶハワイの生徒」と題した講演では、学校教育研究センターとハワイ大学附属実験校とをビデオ会議で結び、先進的な科学教育のカリキュラムとその実践が紹介されました。

さらに、ラウンドテーブルでは「IT活用による教育実践改善と教師の力量形成のあり方」をテーマに、それに関わる優れた教育実践研究に取り組んでいらっしゃる県内公立小学校の4人の先生方から実践事例などの紹介をしていただきました。県立教育研修所情報教育研修課長常陰則之氏、本学伊藤博之助手(教育方法講座)をコメントーターとして迎え、教育実践研究の成果をふまえた意見交換が活発に行われ、テーマに迫る充実した研究協議会となりました。



兵庫教育大学からのお知らせ

◎=問い合わせ先

◎平成17年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)

入学定員 300人
前期選抜試験および後期選抜試験の2回に分けて募集します。

〈前期選抜試験〉

◎学生募集人員 236人

▼学校教育専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	12人
	夜間クラス	若干人
スクールリーダーコース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
教育内容・方法開発コース	昼間クラス	18人
	夜間クラス	若干人
生徒指導実践コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
学校心理コース	昼間クラス	10人
教育臨床心理コース	昼間クラス	25人
▶障害児教育専攻		
		20人
▼教科・領域教育専攻		
言語系コース	昼間クラス	25人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	20人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	20人
	夜間クラス	若干人
生活・健康系コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
総合学習系コース	昼間クラス	20人
	夜間クラス	10人

◎出願期間 7月16日(金)～23日(金)

◎試験日程 筆記試験…8月21日(土)
口述試験…8月21日(土)・22日(日)

◎合格者の発表 9月10日(金) 10:00

〈後期選抜試験〉

◎学生募集人員 64人

▼学校教育専攻		
教育コミュニケーションコース	昼間クラス	3人
	夜間クラス	若干人
スクールリーダーコース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
教育内容・方法開発コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
生徒指導実践コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
幼年教育コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
学校心理コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	10人
教育臨床心理コース	夜間クラス	15人
▶障害児教育専攻		
		5人
▼教科・領域教育専攻		
言語系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
生活・健康系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
総合学習系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人

◎出願期間 10月8日(金)～15日(金)

◎試験日程 筆記試験・口述試験…11月13日(土)

◎合格者の発表 12月3日(金) 10:00

※昼間クラスおよび夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。
※昼間クラスは兵庫教育大学社キャンパスで、夜間クラスは主に大学院神戸サテライト(神戸市中央区)で受講します。
※「障害児教育専攻」は、改組により平成17年度から「特別支援教育専攻」と名称変更することを予定しています。

◎入学主幹室 ☎0795・44・2067

◎大学院学校教育研究科(修士課程)説明会

大学院(修士課程)の教育課程や専攻・コース改革等の概要について説明を行います。また、個別相談の時間も設けていますのでどうぞご来場ください。

◎場所 大学院神戸サテライト

◎日時 9月18日(土)・10月2日(土)
いずれも13:30～15:00

◎庶務課企画室
☎0795・44・2011/2334 ☎0795・44・2009
office-2011@office.hyogo-u.ac.jp

◎ひょうごオープンカレッジ

「あなたの健康生活をデザインする
—ここからからの癒しを求めて—」

健康な生活を送るための24時間について、「ここからからの癒し」をキーワードに健康を多角的にとらえ、個々のライフスタイルに合った健康生活をデザインする手法について実習を中心に行います。

◎開催日 10月2日～10月30日の土曜日
※全5回・10月24日(日)はオフィスアワー

◎場所 兵庫教育大学
◎対象 県内在住または在勤で学習意欲のある人
◎定員 40名(申し込みの先着順)
◎受講料 2万円

◎ひょうごオープンカレッジ実行委員会事務局
☎078・362・3894 ☎078・362・3908
<http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/hhyogo/>

◎青少年のための科学の祭典2004に出展

小学生から大学生までの幅広い年代に対し、自然科学の面白さや楽しさを実際に体験し、発見する喜びを知ってもらうために開催される科学の祭典。今年度は、自然系教育講座の地学分野が「土や火山灰から採れる鉱物を探そう」のタイトルで出展し、併せて自然系教育講座理科学分野の紹介をします。

◎開催日・場所
丹波会場/8月1日(日)
柏原町立崇光小学校(水上郡柏原町柏原683)
姫路会場/8月11日(水)・12日(木)
兵庫県立大学書写キャンパス(姫路市書写2167)
神戸会場/9月4日(土)・5日(日)
神戸市立青少年科学館(神戸市中央区港島中町7-7-5)

◎自然系教育講座地学教室 西村年晴教授
tosnishi@sci.hyogo-u.ac.jp

◎総合学習シンポジウム2004

「総合的な学習が育む確かな学力
—学習指導要領改正のめざすもの—」

本年度のシンポジウムは、「確かな学力」について、さまざまな立場・視点からの意見をいただき、これをもとに「総合的な学習の時間」の成果として実らせていけばよいかを共に考えるために企画されたものです。基調講演には、中教審教育課程部会主査として今回の指導要領一部改正に直接携われた、早稲田大学教育学部教授 安彦忠彦先生をお迎えします。現教職員、

教育関係者をはじめとする多数の方々の参加、ならびに活発な討論を期待していますので、是非お越しください。

◎主催 総合学習系教育講座

◎後援 兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、日本総合学習学会、日本生活科・総合学習学会

◎場所 大学院神戸サテライト

◎日時 8月27日(金) 13:00～17:00

◎実施プログラム

●基調講演 ●問題提起 ●実践報告 ●パネルディスカッション

◎総合学習系教育講座主任 小川武範

☎0795・44・2171
takogawa@life.hyogo-u.ac.jp

◎公開講座

兵庫教育大学における教育研究の成果を広く社会に提供するため、一般の方や現職教員、児童・生徒の保護者を対象に「公開講座」を開催します。今年度は、教員養成系大学の特色を生かした内容の講座を15講座開設し、みなさんの多様な学習意欲にこたえます。

◎庶務課 広報・社会貢献担当専門職員

☎0795・44・2053
office-2053@office.hyogo-u.ac.jp
<https://www.secure.daoffice.com/hyogo/>

◎附属中学校研究発表会

公開授業と教育講演会を実施します。研究テーマは、「「確かな学力」を育む学習指導の研究 —「わかる・できる・生かす」学習の創造—」です。

◎場所 附属中学校

◎日時 11月18日(木)

◎附属中学校(担当:藤田) ☎0795・40・2222

◎平成16年度スクール・パートナーシップ事業パンフレットの発行

学校教育や生涯教育を対象に、兵庫教育大学の教授らが「出前講座」をするスクール・パートナーシップ事業の平成16年度版パンフレットを発行しました。同事業を「教員の資質向上に」、「教育の質的向上に」、「地域内教育の活性化に」、「児童・生徒等の学習意欲の向上に」、「生涯学習の充実に」、どうぞご利用ください。

◎庶務課

広報・社会貢献担当専門職員
☎0795・44・2053
office-2053@office.hyogo-u.ac.jp
<http://www.office.hyogo-u.ac.jp/gen/kikakuho/doc/schoolpartner.html>



◎「教養と専門に関する文献案内2004」刊行

学部学生や大学院生を主な対象にした、日本語や日本文学・中国文学に関する文献案内ですが、一般の方にも興味を持っていただけると思います。

◎前田貞昭研究室
☎0795・44・2083
sadm@soc.hyogo-u.ac.jp



Hyogo University of Teacher Education

編集後記

国立大学法人兵庫教育大学になって、はじめての「教育子午線」です。この機会に巻頭特集として、組織のトップとなる学長、大学運営に関わる副学長、理事からひとこと語ってもらいました。残念ながら、今回は理事と監事全員の紹介はできませんでしたが、法人化した大学の今後の運営を知る意味でも好企画ではないかと反響を期待しています。また、従来からの企画についても多くの先生方にご協力をいただき、感謝するとともに、一冊の広報誌を世に出すにも多くの人の協力が必要であることを実感しています。(ふ)

◎あなたの声をお聞かせください

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。ご意見、ご感想、ご希望などがありましたら、どしどしお寄せください。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1
兵庫教育大学庶務課広報・社会貢献担当専門職員
☎0795・44・2053 ☎0795・44・2009 E-mail office-2053@office.hyogo-u.ac.jp

Kyoiku-Shigosen
教育子午線

第6号 2004年7月発行
発行/兵庫教育大学 大学広報委員会
<http://www.hyogo-u.ac.jp>
編集協力/NTT出版株式会社